（該利益金額中政府に納付したる金額あるときは之を控除す）を通算し拂込資本金額に對し一年百分の十五の割合に達せざるときは其の不足額を當該營業年度に於ける配當し得べき利益金額より控除し其の殘額が申込資本金額に對し一年百分の十五の割合を超過する場合に限り會社は該超過額の二分の一を政府に納付すべし

第十二條　會社は臨時總會開會前に財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、收支決算書及株主名簿を商工大臣に提出すべし

第十三條　商工大臣は必要ありと認むるときは會社の業務若は財産の狀況の報告を命じ又は官吏をして之を檢査せしむることを得

第十四條　商工大臣は會社の業務に關し監督上必要なる命令を發することを得

第十五條　商工大臣は會社の決議、法令若は定款に違反し又は公益を害すると認めたるときは其の決議を取消すことを得、商工大臣は取締役の行爲法令若は定款に違反し若は公益を害すると認めたるとき又は取締役商工大臣の命じたる事項を執行せざるときは之を解任することを得

第十六條　第五條、第六條、第九條、第十條の規定は石炭の採掘に關する事業を營むことを目的とする會社に關しては之を適用せず

附　則

本令は大正十五年三月十日より施行す

ソ支關係

目次

一、過去に於けるソ支關係
二、支那事變とソ支關係
三、ソ支關係の變調
四、大東亞戰後のソ支關係

一、過去に於けるソ支關係

ソ聯と支那との關係は、獨自の政治的性格を持つたソ聯と極めて複雜な事情にあつた支那との關係だけに、特殊な關係が、そこに結ばれてゐたことはいふまでもないが、本年鑑の性質上、本稿においては比較的最近のソ支關係について解說的な叙述の筆を進めることにする。先づ順序として、ソ聯は支那との關係を設定する場合、常に如何なる態度を持してきたかといふことから說き始めたいと思ふ。

ソ支關係は、ソヴエート政權樹立以來今日に至るまでに幾度かの變化を辿つては來たが、この間、ソ聯の支那を見る見方には不變のものがあつたと云つて宜い。それは、ソ聯が常に支那を目するに半植民地を以てし、半植民地としての關係において、支那との諸關係を設定してきたといふことである。從つて、ソ聯は常に支那において、支那赤色化の機會を狙ひ、支那において、東方赤色化の溫床を見出してゐたのである。

支那に對するソ聯の斯かる見方は、今日においても變りがない。ソ聯は、ソ支關係において、如何にすれば支那民衆を己の側に惹きつけ、東方赤色化のために彼らを、起たしめ得るかについて宣傳・煽動を續けてきた。それが今日までソ聯が、ソ支關係において維持し續けてきた不變の方針である。

だが、斯かる不變の方針に變りはなくとも、諸情勢の變化に應じて、ソ聯が對支關係において取つた態度、即ち具體的には支那赤色化の戰術には、幾つかの變化が認められた。

一九二七年、蔣介石の反共クーデター前までのソ支關係は、破綻を見せることの少い親密なものであつた。この時までに取つたソ聯の對支戰術は、支那の民族ブルジョアジーと支那の民衆との提携による列强との鬪爭過程であつた。支那の民族ブルジョアジーが、民族革命のために起つ以上、ソ聯は、彼らをも、自己の味方と見、彼らと支那民衆との協力提携を强調し、列强資本家との鬪爭を策した。この時まではソ聯が支那を東方赤色化の溫床、基地

と見た點を基調とし、凡ゆるソ支關係が規制されたと見て宜い。一九二四年より一九二七年に至る四年間は國共合作が兎も角も維持された時代であつたが、蔣介石が土着資本家と列强資本家との妥協をはかるに至つてから國共合作は破れ、ソ聯は、公然蔣介石を敵として、支那國民黨の擴大をはかり、これを足場として、蔣介石の勢力の切りくづしに專念した。一九二七年まで支那國民政府は、親ソ的色彩を多分に持つてゐたが、蔣介石の反共クーデター以後、英米依存によつて政權の維持を續けてきた。

しかるに、昭和六年(一九三一年)には滿洲事變が勃發、一九三三年にはドイツにナチス政權が確立して、反共勢力の强化が漸く目立つてきたため、ソ聯はこの勢力に對抗する勢力の結集を考へた。その結果は、一九三五年夏、モスクワで開催のコミンテルン第七回大會の決議となつて現はれてゐるが、大會で議決されたのが有名な人民戰線の戰術である。人民戰線とは、日、獨、伊等の「ファッショ勢力」(ソ聯が斯く呼んだ言葉)に對抗するため全世界の民主々義が打つて一丸となりコミンテルンの、結局は、ソ聯の指導の下に「反ファッショの世界的共同戰線を作らねばならぬことを主張したのであるが、この共同戰線が「人民戰線」と呼ばれた。

人民戰線の結成が議決されてから、自然ソ聯の對支政策は一變するに至つた。一九二七年蔣介石のクーデター以後、一九三五年に至る約八年間の對支政策は、中國共産黨を支持し、蔣介石の國民政府の排擊、列强の支那進出の阻止を目標としたが、右の決議以來、民主々義を標榜する國民政府との妥協英米佛等の支那侵略の許容、日獨伊等樞軸陣營による支那進出の排擊を目標とするに至り、再び一九二七年以前の國共合作への途に立戻らんとする傾向を示した。

英米勢力の傀儡となつた蔣介石政府と支那共産黨支持のソ聯との妥協は、當時、客觀的には頗る困難とされたが、一九三五年以後情勢は次第に變化し、翌昭和十一年(一九三六年)夏には西においてスペイン内亂が勃發し、同年十一月には日獨防共協案の締結を見るに至つた。

スペイン内亂に干渉し、人民戰線の勢力擴大をはからんとしたソ聯の意圖は、この内亂干渉において失敗し、ソ聯は大なるマイナスを得たのであるが續いて日獨防共協定の締結によつて、樞軸陣營の强化に大なる脅威を感ずるに至つた。

ソ聯は、西において蒙つた大なるマイナスを東において取戻さうとし虎視耽々たるものがあつたが、たまたま一九三六年十二月に起つた、例の蔣介石虜の西安事件を巧みに利用し、蔣介石

を生還せしめる代償として、人民戰線に關する決議を實行、國共合作を實現せしめ、蔣介石をして抗日に驅り立てさせようといふ方策を强ひるに至つた。

一九三六年末、蔣介石が生還して南京に歸つたことは「奇蹟」とされたが、さらに翌昭和十二年(一九三七年)三月頃、國共合作の準備が進められてゐるといふ情報は、各國の識者をして、まさかといふ奇異の感を益々深からしめるに十分なものがあつた。ところが、同年七月には盧溝橋事件が勃發し、我が方の事件不擴大主義にも拘らず、事件は支那事變にまで擴大し、同年九月には、まさかと思はれた國共合作が、八年振りで復活するに至つた。

國共合作の復活實現は、コミンテルン第七回大會の人民戰線決議の實施を意味するものであり、國際的には支那問題についての英米とソ聯との妥協を意味するものであつた。斯くして、コミンテルンの意圖した支那における「統一抗日人民戰線」の戰術は、ソ聯側から見れば、緒についたものと見られるのであるが、支那事變の勃發を機に一九二七年以來約十年間對立を續けてきたソ支關係は、ここに至つて一九二七年以前の親善關係に戻つたかの感を與へたものと見られる。

二、支那事變とソ支關係

支那は前述の如く、從來長く半植民地と見られ、支那政府も、各國の魔手に躍られて、その「援助」にすがつて、政權の維持を續けてきたのであつた。その魔手の延びる濃淡の度合によつて、支那は英米的の性格を强くし、時にソ聯的の性格を强くしてゐる。支那事變勃發等で支那は英米的性格を露骨にしてゐたが、事變が勃發し、國共合作が成るに至つて、ソ聯支持の色彩を濃厚にし、國民政府内部には蔣介石、宋子文の英米派に抵抗して、孫科らの親ソ派が勢ひを得、一方周恩來ら西安事件に暗躍した中共の首腦部は、國民政府に對して大なる發言權を得るに至つた。

斯くして、國民政府は英米とソ聯との勢力均衡の上に對日抗戰を宣言したが、ソ聯は國民政府に手を延ばすとともに、一方中國共産黨を驅使して、國民政府を裏面より牽制する方針を取つたのである。

ソ支關係に積極性を發揮したソ聯は、支那事變勃發の直後、昭和十二年(一九三七年)八月二十一日、南京で駐支ソ聯大使ボゴモロフと國民政府外交部長王寵惠との間にソ支不可侵條約が調印され、同月二十九日にその内容が公表された。この條約の全文は四條より成り、ソ聯が他の諸國と締結したものと殆んどその趣旨を同じくしたもので特に取立てていふほどの條約ではないけれど、ソ支間に斯かる條約が締結されたことは、ソ支關係の復活・調整

を意味するものとして頗る劃期的な意義があつた。殊に、この條約が支那事變勃發直後に調印を見たことは、ソ聯の意圖のどこにあるかを暗示したものとして特に日本の注意を喚起したことはいふまでもない。

ソ支不可侵條約は、表面平凡な内容を盛つたにとどまるが、一般には、その裏面に密約があるものと信ぜられその密約または諒解の内容としては、一、武器・軍需品の支那政府への賣渡し、二、義勇兵および技術家の支那政府への供給、シベリヤ鐵道と支那とを結ぶ鐵道敷設權のソ聯への賦與等が傳へられた。

その後、一九三八年を經て、一九三九年八月獨ソ提携の成立に至るまで約二年間のソ支關係は、ソ聯の支那國民政府に對する積極的支持の時代で、中國共産黨がこれに乘じて、積極的に國民政府に重壓を加へてゐた時代と云へる。即ち、支那事變二年目の一九三八年一月には、大使ボゴモロフに代つて若年のルガネツ・オレルスキーが重慶に乘り込み、信任狀捧呈のとき、型破りの挨拶をなし、本國政府の傳言なるものを傳へ、「隣國支那に對し深甚なる同情を表す」とて、その對支援助態度を明かにした。

越えて同年五月には國民政府特使孫科が、モスクワでカリーニン、ヴオロシーロフ、ポチョームキン（當時の外務人民委員部次長）らと折衝の結果ソ支軍事密約が成立したと傳へられ、九月には新任駐ソ支那大使楊杰が、信任狀捧呈の際、おくめんもなく對蔣援助を懇願し、同じ頃オレルスキー大使と國民政府財政部長孔祥熙との間に三千萬元の武器購入契約が傳へられた。

斯くしてソ支關係はいよ〳〵密接の度を加へたが、一九三九年（昭和十四年）の二月には、ソ聯と重慶との間に西北航空に關するソ支協定が成立、三月末には重慶、蘭州、哈密（新疆）、アルマ・アタ（ソ領中央アジヤ）を結ぶ新定期航空路が開設され、重慶、モスクワ間を四日で飛ぶ航空路が設定を見るに至つた。これは、ソ支關係の密接化を物語るものであると同時に、支那西北地區がいよ〳〵赤色化の一色に塗りつぶされんとすることを意味するものでもあつた。

この年においては、中國共産黨の蔣政權に對する壓迫が益々露骨となつてきた。一九三九年一月には重慶國民黨五中全會を前にし、中共は、國共合作を口實として事實上蔣政權を乘取らんとの策謀を行ひ、五中全會に對し、國共合流ほか三つの要求を提出した。しかしこの重慶に取つて苛酷と思はれた要求は、五中全會によつて否決されるところとなつたが、中共は、新國共合作等に代る國共合同委員會の設置を重慶に强請し、共同委員會は秘密裡に同年三月中旬重慶に成立を見るに至つた。斯うして、重慶に對する中共の勢

力はいよ〳〵增大の一途を辿つたが、四月末に至り對蔣援助に關するソ支秘密新協定が成立したと傳へられ、さらに、同年六月十六日、クス通信社を通じ、モスクワにおいてソ支新通商協定が成立した旨が發表された。

同年八月までのソ支關係は、ソ聯が、中共をあやつりつつ對支援助を餌に、思ふ存分、重慶を引きづつた關係であつたと云へるが、一九三九年九月以後、ソ支關係に變調を來したことは、次に述べる如くである。

三、ソ支關係の變調

人民戰線の結成を原則に、歐米民主々義と協調を保つてきたソ聯は、一九三九年八月末、現實の必要からドイツと提携し、いはゆる獨ソ提携が成立した。この提携が國際關係に大なる波紋を描き、一時混沌たる印象を世界に與へたことは爭ふべからざる事實であつた。

この結果ソ支關係にも勢ひ變調を來し、重慶では中共の壓迫を逃れんと種々畫策をめぐらし、中共では、獨ソ提携の結果、從來の人民戰線戰術を放棄せざるを得ぬ現實に直面したため、當面何をなすべきかに迷はざるを得なくなつてきた。中共の領袖朱德、周恩來らが同年十月空路モスクワを訪ふたのは、獨ソ關係の新段階とこれがソ支關係に及ぼした影響に對處すべき新方針につきソ聯の指示を受けるがためであつたのは、明かである。

その頃に至つて、重慶政權内にも大きな動搖が起つてゐる。それは歐洲政局の混沌にも起因することではあつたが、動搖の主なる要因が、汪精衛氏の和平運動にあつたことはいふまでもない。即ち、國民黨支治派の巨頭であり、對日抗戰陣營内の反共派の頭目であつた汪精衛氏は、昭和十三年十二月中旬重慶政府を去り、十二月二十二日支那事變處理に關して發した所謂近衛聲明に呼應して、十二月二十八日附で、佛印河内から蔣介石および重慶政權首腦部に對して和平勸告書を送致するとともに、二十九日香港から日支和平促進の聲明を發し、近衛聲明に應じて日本と和議を講ずべきことを主張した。

汪精衛氏の斯かる行動は、重慶政權内部に深刻なる動搖を與へたが、翌昭和十四年（一九三九年）八月末、蔣と絶緣した汪精衛氏が、純正國民黨の發足を決意し、上海において六全大會（第六次全國代表者大會）を開催、蔣介石の國民黨總裁の職權を解除することを決議するに至つてから、重慶内部にも、汪氏に參ぜんとする者が次第に多數になるに及び、重慶の苦悶、動搖はいよ〳〵深刻の度を增すに至つた。

この動搖に狼狽したソ聯は、中共を通じて、重慶を完全に自己の傘下におさめんとしたが、結果は、重慶に對する中共の重壓が大となり、國民黨元老および右翼派の中共に對する不滿が次

第に表面に現はれ、國共合作復活後僅か一年にして早くも國共分裂の兆が現はれてきた。同年十一月に入ると國共の衝突が、自然發生的に、各地に起つてきた。

この年の七月初旬には、駐ソ支那大使楊杰はすでにモスクワを去り、重慶駐在ソ聯オレルスキー大使も同年三月歸國、コーカサスで靜養中、自動車事故で、七月八日、慘死してから大使の椅子が空席となつてゐたが、九月初旬パニユーシキンが突如極秘裡に重慶に現はれ信任狀を捧呈して、重慶外交界を驚かした。ソ聯も對獨關係急變で西歐に氣を取られ、重慶においては內部動搖の時で、ソ支關係には變調を來すとともに、冷却の兆が現はれてきた。

しかし、ソ聯としては、折角國共合作、ソ支提携にまで漕ぎつけたところだから、何とかして、ソ支親善を繼續したい考へで、オレルスキー新任大使に秘策をさづけ、對支關係の調整をはかつたけれど、中共問題からソ支關係は次第に冷却の一途を辿るに至つた。

一九四〇年(昭和十五年)二月、約八百名にのぼる重慶政府派遣ソ聯軍事顧問團を引揚げしめ、ソ聯武器の對蔣供給を停止したのは、ソ聯が歐洲政局の急變でソ芬戰爭のため軍事技術者、武器の需要を必要としたためとは云へ、國共合作の不調、ソ支關係の冷却惡化のためであつたと云はねばならぬ。

ソ聯は、尤もこの間、何かの手段によつて、ソ支關係の調整をはかることを忘れたのではない。一九四〇年十二月末には、ソ支バーター協定を締結し、翌一九四一年一月には、前回に引續き第二回のバーター協定が締結された。これによつて、ソ支間に有無相通ずる途が開かれたが、政治的には兩者の關係は、少しも調整の跡を見なかつた。却つて一九四一年初頭、國共關係が惡化し、一月十七日、蔣政權軍事委員會が、共產新編第四軍々長葉挺を反亂の廉を以て逮捕してから、ソ支關係も益々惡化するに至つた。

ソ聯と蔣政權の關係の惡化は、一九四一年(昭和十六年)四月、日ソ中立條約の締結によつて頂點に達した感がある。この條約の成立は、重慶および中共側に深刻な影響を與へたことは云ふまでもない。重慶外交部は直ちに、ソ聯當局に宛てて抗議的質問書を提出し、日ソ中立條約は、一九三七年成立のソ支不可侵條約に抵觸すると指摘し、反省を促すところあつたと云はれるが、ソ聯モロトフ外務人民委員は、四月二十五日附駐ソ邵力子重慶大使に四ケ條より成る文書を以て回答し、國共關係に言及、重慶側がソ蔣國共調整を希望するならば、蔣介石または宋子文自らモスクワに來り、ソ聯當局と交渉すべきであると逆ねぢを喰はしたと傳へられてゐる。中共側でも、中共政治局主席毛澤東を、モスクワに急派し、コミンテルン首腦部と協議せしめ

たが、納得し得るやうな回答を得られなかつたやうであつた。

斯く、重慶も中共も、日ソ中立條約の成立で、なす方法を知らず、五里霧中の狀態に迷つてゐたところ、また〳〵六月に至り、獨ソ開戰の結果、重慶および中共はさらに混亂を來すに至つた。ソ聯が獨軍の猛攻に直面せる結果、ソ聯の對蔣援助は不可能になるに至るであらうと見、殊に重慶內の親ソ派の悲觀憂慮はその極に達した。ここにおいて、英米派は果然勢を得、今まで親ソ派に壓迫され勝ちであつた彼らは、むしろ獨ソ開戰の結果、ソ聯と英米が提携の可能性あるを見、米英ソ三國が步調を揃へて、對蔣援助を行ふべきであるといふ期待に一縷の望みをつないだ。

獨ソ戰の戰局は、開戰早々よりソ聯の不利を傳へ、殊に中共では、ソ聯が敗けるやうなことになれば、中國は重大危機に直面するであらうと七・七四周年記念日に宣言を發した。重慶政權は、また米英の勸告に基き、ソ蔣軍事互助協定を重慶パニユーシキン、ソ聯大使に提案したと傳へられたが、ソ聯側は、米英の積極的對蔣援助こそ先決だとして、この問題には頗る愼重であつたと傳へられた。

重慶側は、越えて、同年九月開催の英米ソ三國モスクワ軍事會議に參加せんと企圖したが、まんまと拒絕され、重慶の無能を暴露したにすぎなかつた。この會談に參加し得なかつた重慶側は、(同年十月)楊杰を代表としてモスクワに派し、ソ聯軍事顧問團の重慶派遣增員、英米ソ三國軍事參謀委員會の組織、これと重慶軍事委員會との新な連絡機關の設置等の取極めをなした。さらに十月二十三日には、英米ソ蔣四國軍事聯合會議が重慶に開催され、四國の軍事合作につき協議したが、蔣の意圖は、獨ソ開戰による新情勢を利用し、米英ソ三國をして對蔣援助に驅り立たしめるにあつたけれど、國共關係の現狀にてらし、ソ聯は容易に重慶の要求に應じないといふ態度を明かにした。

この間においても國共兩軍は、各地において地盤爭ひを演じ、その相剋は却つて激烈の度を增すに至つてゐる。新に蔣介石顧問になつたオウエン・ラチモアは、兩者の間を斡旋しソ聯の援蔣强化に狂奔したが、ソ聯は却つて警戒心を强め、容易に重慶の要求に應じないといふ態度を示すに至つた。

斯かる關係のうちに昭和十六年(一九四一年)十二月八日、大東亞戰の大詔渙發となつたのであるが、要するに一九三九年八月より一九四一年十二月に至る間のソ支關係は、變調惡化、冷却の時代であつたと云へるであらう。

四、大東亞戰後のソ支關係

大東亞戰の大詔渙發とともに、重慶

政權は今度こそソ聯を戰爭に引き入れ、對蔣援助を積極化し得ると早合點して、十二月八日午後三時半、蔣介石の名において、パニューシキン・ソ聯大使を通じ、スターリン宛親書を手交し、反樞軸戰線結成の必要と促進を提議、特にソ聯を反樞軸戰線に驅出し、對日戰の渦中に投ぜしめんとしたが、これに對し、ソ聯の態度は極めて冷靜であつたと云へる。

既に、ソ聯は、大東亞戰勃發の直前ロゾフスキー情勢局次長の名において、日ソ關係不變、日ソ中立條約の遵守を聲明し、大詔渙發後も、戰爭に參加せざる極めて愼重なる態度を示した。重慶政權では、この態度に失望し、かつ米英が對日抗戰にとらはれ、重慶への援助が望み薄になることを恐れ、物質的援助をソ聯に求むべく、ソ聯に泣訴するやうな立場となり、一方米英の必死なソ聯抱き込みも何ら奏功の見込みが立たなくなつたため、米英重慶も當初の期待を裏切られ暫くは茫然自失の狀態を續けた。

重慶側は、二月中旬、中央黨部および國防最高委員會の名において、ソ聯に對し、軍事的合作をはかるべき意氣の長文のメッセージを送つたけれど、既にシンガポールが陷落し、ABCD陣が崩潰した今日となつて、斯かる抽象且つ皮相な申入れにソ聯が耳を藉す筈もなく重慶側の焦慮は日毎に目立つてきた。しかし、ソ聯は重慶との純然たる通商關係、物資援助はこれを繼續する肚で、一九四一年十一月には、ソ聯と重慶間には新經濟協定が成立したと傳へられてゐる。

重慶は、あらゆる手を盡して、ソ聯よりの援助とソ聯の戰爭參加を策し、一方ソ聯に媚態を送り、昨年末には、ワシントン滯在中なる宋美齡を重慶への歸途、モスクワに立寄らせたい意向を漏らしたが、ソ聯政府はあくまで日ソ兩國間の親善關係の維持を要望し、重慶よりの斯かる媚態を非常に迷惑視してゐたやうである。越えて、本年一月、汪精衛氏の新支那國民政府が、對米英に宣戰するや、この時もソ聯は極めて愼重な態度を取り、ソ聯紙は、國民政府が、米英に宣戰した事實および戰爭完遂に關する日華共同宣言の內容を報道したのみで、國民政府を「南京政府」と呼び、却つて注目を惹いたほどであつた。これによつてもソ聯の戰爭に介入せざらんとする中立態度が益々明かとなつてきた。

本年六月に入り、中共陣營にも、コミンテルンの解散によつて動搖を來し、中共の首領毛澤東らは、モスクワを訪問、種々對策を講じたが、ソ聯の對重慶、對蔣態度には依然愼重な點が見られ、重慶、中共側の欲するが如き處置に出ないことが明かになつて今日に至つてゐる。

これを要するにソ聯は、獨ソ戰を控え、西歐問題に多忙である一方、東方

問題には依然極めて愼重なる態度を持し、みだりに米英重慶の尻馬に乘つて、火中の栗を拾はないといふ態度を堅持してゐる。斯かる態度は、去る十月下旬からモスクワで開催された米英ソ三國會談にも現はれてゐるところで、この會談においても、ソ聯はつとめて、東方問題に觸れないといふ方針を取つた跡の歷然たるところが見えてゐる。

ソ聯は、依然今日に至るまで大東亞戰不介入方針を堅持し、重慶、中共に對しては、云はば不即不離の關係を持續、殊に重慶とは單なる經濟關係の維持、通商關係の持續といふ關係以上一歩も出ないといふ方針を取つてゐる。しからば、何故、ソ聯は、ソ支關係において斯かる態度を取つてゐるか？それは、ソ聯が、支那大陸の內部事情を客觀的に見、うか〳〵重慶、中共の訴へを主觀的にきかないといふ方針を取つてゐるからであるソ聯として斯かる態度を取らしめた有力なる要因は、實に支那における汪精衛氏國民政府の力強き發展によるものと云へるであらう。

即ち、汪精衛氏を首班とする國民政府は昭和十五年（一九四〇年、中華民國二十九年）三月三十日、南京に還都、眞正國民黨による新支那中央政權を樹立して以來、銳意行政機構の改革、產業の開發、地方行政の整理、敎育の發展、軍の建設につとめた結果、成果の頗る見るべきものがあつたが、大東亞戰の勃發とともに聲明を發し、「國民政府は條約を尊重し、また東亞新秩序建設の共同目的を實現せんがため、日本と甘苦をともにし、また確乎不拔の精神を以て、その難局に臨むことを決した」と云ひ、また「須らく中國の安危は、東亞の安危と不可分のものであること、即ち支那の安危を不可分のものであることを認識し（中略）、日本と協力して、この目的を完全に到達せしめねばならぬ」と述べ、日本との提携協力を中外に聲明するところあつた。

つゞいて大東亞戰始つて以來、十三ケ月目の本年一月九日には、共同の敵、米英兩國に對して宣戰を布告し、「同甘共苦」の精神に基いて、我が國と協力することを具體的に示したここに日華關係は、新なる段階に入り、「同甘共苦」から「同生共死」の一層密接なる關係に入つた。本年八月一日を期し、上海共同租界は國府に回收され、國府の政治力は、ここに格段の浸透を見、つゞいて先般十月三十日の治外法權の撤廢、日華條約の根本的改訂を見るに至つた。

日本と新中國の關係の密接化と並んで、東亞の天地には新ビルマ國の誕生あり、フイリツピンの獨立ありさらに去る十一月五日より大東亞會議の開催があつて大東亞共榮圈の建設は着々具體化し、ここに日本、滿洲國、中華民國、タイ國、ビルマ國、フイリツピン

共和國は堂々歩武を揃へて、重慶政權並びに米英に對し、益々膺懲の鐵槌を下さんとしてゐるのである。また自由印度の獨立も、近き將來に實現せんとする情勢になつてきてゐることは周知の事實である。

この東亞における全アジヤ十億民族の覺醒に、ソ聯は無知であらう筈がない。ソ聯が、大東亞戰勃發後、却つて重慶、中共援助に冷淡であるかの如き態度を持してゐるのは、大東亞の情勢が重慶、中共にます〳〵不利に展開しつつあることを知悉してゐるからにほかならない。

ソ聯は、ヨーロツパ問題においては、米英と協力する態度を取り、また米英の援助をも第二戰線結成のかたち等において要求してゐるが、斯かる要求も容易に實現を見ない今日、ソ聯は、米英の抱込み策に乘つて、重慶との腐れ縁を深くし、東亞問題に介入して、これ以上抜き差しならぬ關係に入ることを極力さけてゐる。

ソ聯の支那に畫策するところは、結局は支那の赤色化であり、具體的には、冒頭で述べた如く支那の民衆をソ聯の影響下、ソ聯の傘下に沒收することである。中國共產黨を援助し、國共合作を復活し、蔣介石援助を續けてきたのも、要するにソ聯は支那民衆の赤色化を究極目標として、これを達成する手段としてこれらを實行したにすぎない。ソ聯の目標は支那民衆であり、中共援助も蔣政權援助も、悉くこれは手段である。

しかし、支那民衆の赤色化と云つても、さう容易に出來るものではない。殊に、防共を最大國是の一つとする新國民政府の確立は、ソ聯に取つては、支那赤色化のため大なる障害をなすもので、大東亞民族の力強き提携協力の前には、ソ聯の目的達成などは、全く一場の夢にすぎないことが、着々實證されつつある。

ソ聯もこの情勢を知悉してゐることは前述の如くである。たゞ、現在、支那民衆は次第に覺醒し、大東亞共榮圏建設の必要を感じつつあるとは云へ、大東亞建設は今その途上にあるため、支那民衆はソ聯または中共の宣傳に乘ぜられる隙がないとは云へない。

支那事變勃發以來六年にして、支那は孫文の理想とした民族革命を達成したと云へるこれは全く日本のおかげである。支那事變が起らなかつたなら、民族革命は、支那民族自身の手によつては、今後五十年、恐らくは百年を要したであらうそれを、幸ひにも日本の協力のため、米英の支那への商品輸出、資本輸出は絶え、支那民族は、今や米英資本の桎梏より解放されんとしてゐるのである。これこそ、三民主義の理想であり、孫文が長年考へた支那における民族革命の達成にほかならぬ。

だが、支那には未だ蔣政權の傘下、四川、雲南、貴州、廣西、西康各省に

約一億の民衆がをり、中共の支配下並に影響下に約一億の民衆がゐる。ソ聯は、新中華國民政府下にある二億の民衆には手をつけ得ないとしても、蔣政權および中共傘下の民衆併せて約二億に對しては、自己の支配力を強化し、ここに東方赤色化の基地を作らうとしてゐるのである。

ソ聯の目的は、右のやうに究極において支那民衆の赤色化にあるは昔も今も變りはないが、その方法手段については、極めて愼重な態度を持し、東亞における勢力關係を考慮してみだりに事を起さうとは考へてゐないやうである。從つてソ聯と重慶・中共との關係も、一九二七年以前におけるやうな早急な手段を取ることを避け、情勢の變化に應じて、具體的な効果的な策を取ることを考へてゐる。しかし、大東亞の實狀は、ソ聯、重慶、中共の動きを許さぬほどの完璧な體制が形造られんとしてゐる。

要するにソ支關係は、大東亞共榮圏の建設の程度如何によつて將來變化を來すものと見るを得べく、共榮圏建設の歩武が力强ければ强いほどソ聯と、重慶・中共の關係は冷却化するものであり、現狀においては、右兩者の關係は、一九三七年乃至三九年間の如き、密接、積極的なものでなくなつてゐることは事實である。恐らく今後も、共榮圏の建設が益々積極化することが明かである。以上、ソ聯と重慶・中共の關係は、それに逆比例して、冷却、惡化するものと見てあやまちがないであらう。

附錄

ソ聯邦主要新聞記事集

目次

政治
一、米の援ソ物資額
二、ソ聯援助金額六〇〇萬ドル
産業
一、全ウラルの生産情況
二、勞働豫備軍養成
三、戰時下の北樺太炭業
農業
一、植物資源の工業化問題
二、副次農業の收穫
三、シベリヤ及びウラル果樹園擴張
四、カムチツカの漁業
五、スターリングラードの復興狀況
學術
一、新輸血方法を發明
二、東部に於ける醫學研究狀況
三、二百種の藥用植物を發見
四、第九回全ソ建築協會開催
五、戰時映畫論問題
六、ロシヤ度量衡所、創立五十年
ソ聯の資源調査
一、カザツクスタンの大調査隊

本年鑑最終編纂期たる昭和十八年始めより十一月初めにかけてソ聯主要新聞紙たるプラウダおよびイズウエスチヤ兩紙に掲載せらた政治、産業、方面に關する記事を玆に採錄することにした。

政治

一、米の援ソ物資額

二十四億四千四百萬弗

近着のイズウエスチヤ紙にアメリカの武器貸與法に基づく對外物資供與に關して、ルーズヴェルト大統領の議會に對する報告の全文を載せてゐる。即ちタス通信ワシントン發に依る主として援ソ物資供與の部分に就ては、大統領は「武器貸與法を採擇した一九四一年三月十一日から一九四三年七月三十一日に至る間に於てアメリカ合衆國は、右法案に基づいて各種物資の對外援助を爲したがその總額は一三九億七千三百三十三萬九千弗であつた。そのうち五〇%は武器が占め、二一%は工業製品、食料品及その他農産物が一四%を占め、殘餘の一五%には船舶その修理及びその他のサーヴイスが含まれてゐると同時に武器貸與計畫に基づいて供與される資財生産用として豫定されたアメリカ國内に在る諸企業の諸設備品が含まれてゐる。此の計畫の實施の當初からアメリカかイギリス聯合王國に對する援助は金額で表はして四十四億五千八百萬弗、ソヴェート聯邦に

對しては二十四億四千四百萬弗であつた。

武器貸與法に基づくソウエート聯邦に對する武器供與の細目の中で「ソウエート聯邦に對する援助は議定書の名稱に依て明らかな協定に基づき許與される、吾々は右議定書に依つて一定量の武器を規定の期間に許與することを協定せり」と言つてゐる。第一回の議定書は一九四一年十月一日に調印を了し一九四三年六月三十日迄九ケ月に擴大された。第二回目の議定書は一九四二年七月一日から一九四二年六月二十日迄の期間に亘つた。第三回目の議定書に關しては一九四三年七月一日から一九四四年六月三十日迄の期間に亘る筈であり、それは目下折衝中である。而して吾人は此の議定書の調印を待たずに上述の法案に基いて援助を繼續してゐるのである。ソウエート聯邦に發送した七月中に於ける物資噸數は高水準に達したが八月には同貸與計畫開始以來最高水準に達する筈である。武器貸與法に基くソヴェート聯邦に對する供與は本年上半期には次の如くなつてゐる。即ち大砲及びその他の武器類は一九四二年の一年間に二億一千三百九十一萬八千弗及び一九四一年の七萬五千弗に對して一億二百二十七萬九千弗であつた。飛行機及びその部分品は一九四二年の三億六十四萬一千弗、一九四一年には全然發送されなかつたのに對して二億二千五十七萬七千弗であつた。

また戰車及びその部分品は一九四二年の一億七千六百八十萬四千弗、一九四一年の三萬五千弗に對して六百五十萬四千弗であつた。而して各種輸送車及びその部分品は一九四二年の一億五千九百九萬三千弗、一九四一年には全然送られなかつたのに對して一億六千六百八十二萬四千弗であつた。小型船舶は一九四二年の一千百八十二萬五千弗に對して本年上半期には四千四百九萬六千弗、工業製品は一九四二年の三億一千二百八十八萬一千弗及び一九四一年の四十三萬五千弗に對して三億二千百八十二萬五千弗であつた。又食料品は一九四三年の一億八千四百八十一萬四千弗、一九四一年には全然發送されなかつたのに對し一九四三年上半期には二億三千九十九萬七千弗となつてゐる。第一回議定書の效力發生の瞬間からソウエート聯邦に發送された資材の約五七%は飛行機、戰車及び大砲の如き武器となつてゐる。吾々は武器貸與法に基いて、ソウエート聯邦に對しては他の如何なる國に對するよりも多く飛行機を供與したのである。

我々は亦ソウエート聯邦に一〇萬瓩以上のレール及び各種機械を送つた。一方ソ聯邦の自動閉塞信號方式に對する裝置の尨大な數量が目下製造されつゝある。吾人は亦一萬輛以上に達する電話用ケーブル及び約一九萬の野戰用電話器を發送したのである。ソウエー

ト聯邦に對する供與物資のうちには、現在獨軍によつて占領地域にある軍需工場の生産に代はるべき數千瓩に上る原料並に諸機械が含まれてゐる。ソウエート聯邦に對する供與物資のうちには、アルミニユウム、鋼及び大量の加里、彈藥類製造爆發物が含まれてゐる。吾人はアメリカに於いて着手の工場を購入し、それをソ聯邦に發送すると共に、新しい工場に要する設備をも送つてゐる。

ソ聯邦に送つてゐる物資總瓩數の四分の一は食料品である。而して一三〇萬瓩以上の食料品を送つたが、第二回議定書に基いて約一〇〇瓩の食料品を送つてゐるのである。

一九四一年三月から一九四三年六月三十日迄の武器供與數はイギリス聯合王國に對しては十七億一千萬弗、ソウエート聯邦に對しては十三億九千三百萬弗、アフリカ、中亞及び地中海諸地方に對しては十億四百萬弗、支那、印度、濠洲及びニユージランドに對しては七億四千八百萬弗、その他の地方に對しては三億八千三百萬弗であつた。而して工業材料の輸出高はイギリス聯合王國に對しては十二億一千八百萬弗、ソウエート聯邦には六億三千五百萬弗となつてゐる。また農産物の供與總額はイギリス聯合王國には十五億三千萬弗、ソウエート聯邦には四億一千六百弗、その他各國に對するもの總計で二十億八千五百萬弗となつてゐる。

二、ソ聯援助金額六〇〇萬ドル

戰局の進展と共に米英の苦悶焦燥は凡ゆる機會に表面化され、ソ聯に對する援助物資の供與も手形通りには却々實行できぬやうであり、ソ聯側の鼻息を窺ふことだけ汲々たる有樣である。それかあらぬか、アメリカからのソ聯援助物資供與に關する記事も、ソ聯紙では第四面あたりに極めて小さく扱つてゐる。例へば去る七月三十日ニューヨーク發タス通信の如きもアメリカの戰時援ソ委員會の活動に就いて僅かに十數行の記事で片着けてゐる。

それに依ると、戰時援ソ委員會は一九四三年上半期に於いてソ聯に與へた現金及び物資を以つて總額五六〇萬ドルであつたと發表した、現金は各種物資購入に當てられ、そのうちには醫療品が含まれてゐる。同委員會は亦ソ聯へ六〇〇萬ドル以上の各種物資を送つた、醫療品の購入はアメリカ政府及び、アメリカ軍衛生部との共同に行はれたと言つてゐる。

産業

一、ウラルの生産情況

企業關係者よりス首相に報告

ソ聯邦最大の重工業地帶と農業地帶

地方たる南露ウクライナを失つた後に殘された唯一の工業中心地はウラルであり、今日ソ聯戰力の培養地として最も重要な位置を占め、名實共にソ聯の兵器廠となつてゐる。斯樣にウラルがソ聯邦の國防上に演じてゐる役割は非常なものであるが帝政ロシヤ時代の歷史を振返へつて見ても然うであつた、ズブオロフ、クトウゾフなどの帝政ロシヤの名將英雄もウラル産の武器で戰つてゐる、ソ聯側の發表に依ると獨ソ戰開始後二ケ年間に、ウラルは舊來の製鐵業を急速に擴充した他非鐵金屬工業の發展を見、スウエルドロフスク州に於ける鐵鑛採取及び銑鐵生産高は二倍に增大し、鋼及び鋼材の生産も激增の一途を辿つてゐる。而してソ聯の各工場が一九四三年度上半期にウラルから供給を受けた滿俺鑛は一九四〇年度一年間の量の一〇倍も多かつたと言つてゐるのである。またウラルの農業も非常な成功を收め、一九四三年度春季の播種は農業技術家の指導宜しきを得た結果、馬鈴薯及び蔬菜類の植付は昨年よりも激增したと誇示してゐる。此のウラル地方に於る生産力發展に就いて、近着のイズヴェスチヤ紙上にウラルに於ける全企業、コルホーズ、エム・テー・エス(機械トラクター配給所)ソフホーズ、公共機關などに携はつてゐる一五〇萬人に餘る勞働者及び勤務員から、スターリン首相に宛て挨拶文が掲載されてゐる、その中で『祖國戰爭の最初の日に、吾々は前線のために日夜作業の手を休めることなく、武器彈藥增産の誓ひをしたが、此の誓約はスヴェルドロフスク州の勤勞者一人一人が戰鬪の旗印となつた。また一九四三年一月一日の報告に於いて、吾々は一九四二年の責任を果したことを報告すると共に本年度は昨年度に比べて武器及び彈藥を二倍增産することを約束したのであつた、吾々はその約言を守つてゐる、

而して一九四三年度の上半期に於いて武器彈藥を著しく增産したと同時に、金屬、燃料、電力の增産を行つた。と言つてウラル地方に於ける生産增强の現況を報告、更らにまた、閣下の本年五月一日のメーデー當日の命令は、ウラル人の各一人々々の膽に銘じて居り、ウラルの人々は自分達の作業の缺點を排除しつゝ經濟問題隘路を解決し、生産の新しい昂揚を達成すべく努力してゐる』と述べてゐる。

更らに亦同報告の中で彼等はスターリン首相に對し『ウラルの國防工業は急激に增大しつゝある。ウラルには更に鞏固な且つ强力な燃料、動力基地が必要である。此の問題は既に第一次的成果を達成してゐる、例へば、スヴェルドロフスクに於ける電力生産は最近殆ど二倍に增大したが、吾々はそれを經濟的に消費する方法を知つた、發電所に於いては、限られた期間に新タービンを据付け、新汽罐を裝備してゐ

る。平時の規準よりも幾倍も早く一三五日の間に貫流汽罐——ラムージン汽罐——の巨大な發電所を建設した。』と述べ、最近ソ聯邦政府に依つて表彰されたソ聯有數の科學者ラムージン教授の發明した汽罐を引用してゐる。詰りこれに依つてウラルの急速建設並に科學技術者のウラルへの動員振りを示唆してゐるやうである。

ウラル工業の基礎燃料の增產に關しては、矢張りその中で嘗てスターリンがウラルに就いて言つた「ボゴスロヴスク及びイエゴールシノ炭坑から工場や發電所に向ふ石炭列車は增加の一途を辿つてゐる。石炭の採取は戰前の三倍に增加した。然るに今年の一月から六五%の增加を見た。我國には泥炭の採掘も廣汎に進展してゐる」といふ言葉を引用した上、『しかし、燃料の必要は益々增大してゐる。それを充たすためには一九四四年の初め迄に地元石炭の採掘を二倍にし、ボゴスロヴスク石炭をウラルの基本的な汽罐室たらしめる責任がある。』

決戰には多くの武器彈藥を必要とする。而して、これがためには吾々は銑鐵、鋼及び銅、アルミニュームの精錬を增大せしめ、鋼材の製造を增加しなければならない』と述べ、次いで、第一次歐洲大戰當時、即ち帝政ロシヤ時代のウラルの生產力の貧弱であつたことを擧げた後『今日の狀況は影である。首相の撓まざる配慮は製鐵業及び非鐵冶金業を開發した。戰爭以來二ケ年間——即ち一九四一年六月から一九四三年六月迄にスヴェルドロフスク州に於ける鐵鑛採掘並に銑鐵の精錬は二倍に增加した、鋼の精錬も激增した、特に大飛躍を示したのは滿俺鐵の採掘であつた』と述べ、從來ウラルの製鐵業が南露地方の良質マンガンに賴つてゐたが、現在ではウラルのそれに依存せざるを得なくなつたことを闇に認めて、『ウラルの諸企業に於ける生產文化も絕えず昂つてゐる。勤勞戰線の戰士達は武器彈藥の製造を三倍にし、製品の質を絕えず引上げるために技術を更らに深く習得してゐる。戰爭技術のより完全な達成を期するため科學實驗と勞働者の理解が結び付けられた、幾千の合理化者の提案はウラル國防工業の技術的進步を促進しつゝある。』と述べ生產部門への婦人の動員にも觸れて、『一九四三年度の上半期の間にウラルのマンガンは一九四〇年一ケ年間の採掘量の一〇倍を得たのである、ウラルはソヴェート國家の國防的工業の脊椎と呼ばれてゐる所以が玆にある。吾々はその力を絕えず强化する、即ち高爐を建設し平爐に火を焚き壓延機臺を据えつけ豐富なウラル地下資源から鐵鑛、銅鋼、ポーキサイト、マンガンを益々多く採掘しよう』とスターリン宛に挨拶を送つてゐる。

更らに獨ソ開戰以來見られてゐる、ソ聯邦の科學技術の東部移動にも觸れて、『ウラルの諸企業に於ける生產文化も絕えず昂つてゐる。勤勞戰線の戰士達は武器彈藥の製造を三倍にし、製品の質を絕えず引上げるために技術を更らに深く習得してゐる。戰爭技術のより完全な達成を期するため科學實驗と勞働者の理解が結び付けられた、幾千の合理化者の提案はウラル國防工業の技術的進步を促進しつゝある。』と述べ生產部門への婦人の動員にも觸れて、

『最近迄婦人が反射爐精錬を行ひ得るとは何人と雖も考へて居なかつたが、女子共產青年同盟員のアレクサンドラ・ステハノヴアはソウエート最初の婦人製鋼者となつた。而して、一平方メートル當り規準四瓩の原料精錬に對して五・三瓩を熔解したのである。』と言ひ更らにその他の優秀な勞働者の成績を擧げ、『勞働者、職工長、技師、技手などは積極的に社會主義競爭に參加して、數千瓩の鑛石、石炭、金屬をその計算表に加へると共に、大砲、タンク機關銃、彈丸その他兵器の計畫外製品を赤軍總司令官の特別献金としてゐるのである。』と報告、一方、またウラルの食糧問題に關聯しては、『食糧を以つて前線銃後を保證することに關する大きな配慮はコルホーズ農民の責任となつてゐる。今年度の植付は農業技師の指導を嚴守した結果、穀物作物を良く準備した土壤に列植機を以て九八%植付けた、馬鈴薯及び蔬菜も昨年よりも著しく多く植付けたが、州の全農業は戰時の必要を未だ充し得ない。吾々には未だ缺點があるから更らに努力する必要がある、州內の男女コルホーズ員エム・テー・エス、ソフホーズ及び副次農業の男女勞働者は、今年度に於いて穀物は一ヘクタール當り一〇〇ツェントネル(一ツェントネルは〇、一瓩)馬鈴薯はヘクタール當り一二〇ツェントネル、蔬菜は同じく一五〇ツェントネルを收穫するよう固く決心した。』と述べこの他ウラルに於ける家畜の增產、都市及び農村に於ける文化施設の强化に就いても觸れ、更らにウラルを中心としてのウラルの重要性を双肩に擔ふウラル人の責任を果すべきことをスターリン首相に誓つてゐるのである。

以上が最近のイズヴェスチヤ紙に現はれたウラルの生產增强振りの一端であるが、このうちに否定面は最少限度にしか述べてゐない、例へば勞働者の住宅問題が來るべき多期の大きな惱みであるが、工業の急速建設を誇示しながらこれに觸れてゐないが、現在のソ聯に取つてウラルが如何に重要であるかは親知されよう。

二、勞働豫備軍養成結果

勞働豫備軍の戰時的利用に就いては大規模の大動員を行つてゐるソ聯當局が懸命の努力を拂つてゐる所であるが、最近に於ける婦人勞働、學徒の企業への動員、都市居住者、工場及び公共機關の勞働者並に勤務員に依る集團或は個人菜園など、何れを取り上げても深刻な戰時態勢の樣相を傳へるものはなく、ソ聯の良く言ふ資源の尨大さも調査開發の實施も結局人的勞働力の活用を待つて初めて戰力となるのであつて、少くとも現在に於けるソ聯は農村に在つては農村勞働者の都市への吸收に依る勞働力の不足、延いては食糧確保に對する危機を孕み、都市勞働者

の軍事動員に依る熟練工の不足など工業生産部門の否定面を包藏してゐるもののやうである。その結果、數年前より實施して來た勞働豫備軍養成には非常な力の入れかたである、近着イズヴエスチヤ紙はモスクワの十月會館に於て去る七月二十日の曉に都市、州、地方、各共和國の勞働豫備局長官の會議が開催されたことを傳へてゐる。即ち職業學校、鐵道學校及び工場實習學校の當面の問題に關する報告を聯邦人民委員會議附屬勞働豫備總管理局長官モスカトフが行つた、それに依ると、二年十ケ月前にスターリンの創意に依つて勞働階級の計畫的補充を行ふために勞働豫備制度が樹立されたのであるが、現在では一、五〇〇の職業學校、鐵道學校及び工場實習學校を算へてゐる、而して國家はこれら諸學校の維持に對して五十億留を支出したと述べ、更らにモスカトフは國民經濟の最も重要な部門、特に第一に國防企業に對する熟練勞働者の大規模な養成狀況に關する數字を紹介し、これらの諸學校は、生産教育を施してゐる間に、國家並に前線に對して既に二十六億留の製品を與へ、また生徒は鐵道、機關車を修理し、礦石や石油を採取し、鋼及び銑鐵を精錬して居り、職工學校に於いては生徒は兵器及彈藥を製造しつゝあると言つた、生産教育の質的向上と生徒の教育に對して特別の注意を拂つてゐる旨を報告してゐる。尙勞働豫備關係代表者會議は翌七月二十一日も引續き開催された。

三、戰時下の北樺太炭業

北樺太の石炭業と石油工業は、東亞ソ領方面に於ける重要な基礎産業として、その役割は大きいから、最近の石炭に就いてイズヴエスチヤ紙は大要次のやうに報道してゐる。即ち遠い北樺太の炭坑夫達は毎月生産計畫を遂行して居り、「十月炭坑」の集團は上半期計畫を一二〇%遂行し、十月革命二十六周年記念日迄には年度計畫を遂行する筈である。と報じ、またその他原價の引下げ、資材の節約などをも强調してゐる。また北樺太炭礦業は七月、八月の兩月には本年上半期よりも成績が更らに良好で、七月に於ける坑夫の勞働生産性は上半期のそれに比較して一一五%引上げられ、規準を遂行せぬ坑夫の數は減じた。十月炭坑及びミコヤン炭坑に於ては一つの例外も無く日産課題を超過遂行してゐると報道し、更らにまた各炭坑には二〇〇%遂行者が增してゐるばかりでなく、戰時下北樺太の諸炭坑には炭坑夫の妻も娘もまで働いてゐる、彼等男子に代つてバラ積みや選別、積込み作業などに從事してゐる、ムガテ炭坑に於いてはテミルガレエエウア、カウチイナ、クリユコヴアなどの婦人は立派に一三〇%乃至一四〇%の作業遂行率をました、と言つて、婦人の炭坑進出振りを報じ、また

他の一例として「獨ソ戰開始當時、家庭の主婦であつたエルニゴロヴアは現在ではムガチ炭坑の機關士となつてゐる。」と報じ、婦人の炭坑作業協力振りを傳へてゐる。その他冒頭で述べたやうに炭坑作業に要する資材の節約などに就いても好成績を擧げてゐる旨報じてゐる。

農業

一、植物資源の工業化問題

戰時下急迫せる狀勢に對應すべく、ソ聯當局か多數の學者を動員して地下埋藏資源の開發を行つてゐることは屢報の通りであるが、獨ソ戰開戰以來その植物資源の開發利用にも積極的に乘り出した模樣で、これに關する記事が屢々ソ聯の新聞雜誌を賑はしてゐる、殊に戰爭に依つて尨大な戰傷病者を出した上に、醫藥原料の缺乏に惱んでゐるので、これら植物資源を基礎とする藥劑の製造が論議され、またこれを基とする工業用藥品などに就いて諸學者がその急速開發を强調してゐる、以下の論文は近着イズヴエスチヤ紙に揭載されたエヌ・パヴロフ教授が植物を原料とする工業資源に關して述べた論文の大要である、ソ聯の廣大地域を蔽ふ植物資源の工業化は埋藏資源の開發と共に吾々の注意に値するものである。

大祖國戰爭の期間は未曾有の規模に於いて、ソ聯邦の凡ゆる天然資源を國防に動員することで際立つてゐる、これは先づ第一番に工業企業の威力と任務を早めるのみならず、農業を發展させる鑛物富源の開發に關聯するものである。遺憾ながら、我々を取り卷いてゐる植物界の各種の貴重な工業資源の利用狀況はそれ程でないのである。然るにソ聯邦の植物富源は實際に無盡藏であり且つそれに依つて强力な工業的なまた生活上の豫備力となつて居り、これが賢明な實行は國民經濟に對して大きな將來性を與へるものである、故でソ聯皮革工業に取つて第一に確得する必要のあるのは地元及野生の鞣皮用植物産地に於いて採取される鞣し用抽出劑である、戰前にはこれは全く新しい報道であつた、ベーヤキモフ、ゲー・シコルイコフの研究に依つて鞣し用原料として木材、即ちエゾ松及び落葉松の皮の如き植物の價値あることが明らかにされた、その他、痩せ地に成長してゐて建築材として使用できないエゾ松の皮には鞣し用物質が多く含まれてゐるといふ驚くべき法則が發見されたのである。

落葉松の皮にタンニン的性質のあることが發見されたことは更らに重要である、西部シベリヤ及び東部シベリヤの森林に於いては、周知の如く此の落葉松が壓倒的に多數であり、從つてシベリヤに於けるタンニン劑生産の問題は地元資源を以つて解決することが可能である。アルタイから東亞ソ領の沿

海地方迄の一億三千萬ヘクタール以上を數へる密林があることだけを引用しても、此の種資源が無限であることが判る、中央アジヤ及びカザツクスタンの無木地帶に於ても戰局は學者をして草木主として草根のタンニン劑抽出の可能性を愼重に且つ秘密に研究せしむるやうにしたのである。大黄、スカンホの全種類も、櫟、樺及び柳の皮に含むタンニンに劣らぬ量を含んでゐるばかりでなく、これらの含有量を凌いでさへゐることが判つた、而して大部分の手工業的なタンニン抽出工場から新しいタンニン含有資源を入手することができ、次には皮革工場に對して間斷なくタンニンの供給を保證するところの更らに强力なタンニン抽出工場を建設することができたのである。

他の國家的重要書類は紙の生產である。ソ聯邦の文化、日常生活並に經濟の重要にして責任のある部分が、如何に充分な紙の供給を必要としてゐるかは云ふ迄もない。假りにソ聯邦の北部諸州は特に製紙用木材が豐富であるとしても、カザツクスタン、ウズベツキスタン、タジツキスタン及キルギーズの如き諸共和國に久しい以前から紙を生產しない消費地なのである。然るに中央アジヤの植物界は、チイ（ハヤガネ草に似た草）、エリアントの如き製紙原料となるカザツクスタン共和國だけで一ケ年に一二〇、〇〇〇噸の原料に當る二〇、〇〇〇ヘクタールのチイ及一千萬噸乃至一千百萬噸の收穫を擧げる一六〇萬ヘクタールの土地に芦が茂つてゐる事が調査されたのである。同樣のことがウズベツキスタンに於けるアム・ダリヤ河下流及びタジツキスタンのヴアフシユ河及びピヤシチ河溪谷に於いて明らかにされてゐるのである。一言にして言へば、製紙用セルローズ原料基地は充分に調査されたのである。同樣にアフリカ・ハヤネガを原料とするイギリス紙に劣らぬ最も良質の紙をチイから製造する工學過程も研究され、芦からはボール紙、包裝用紙及び新聞用紙を製造する過程も研究濟みとなつてゐるのである。

次に、野生の醫學原料の書類に大なる注意が拂はれてゐる。ずつと以前から藥草の收穫と作物に於いて主要な役割を演じて居つたウクライナ共和國及び白ロシヤ共和國の一時的喪失に依りこれら資源の中心は自然東部地方、即ちシベリヤ、カザツクスタン及び中央アジヤ共和國の範圍に移動したのである。カザツクスタン及び西部シベリヤの地域は周知の如く優秀なヴイタミン原料の一である野バラ及果實類の强力な中心的產地を成してゐる。基本的な草叢は廣大なステツプに生ひ茂つてゐる譯ではなく、最も大きな諸河川即ちイルトイシ、オビ、イシム、スイル・ダリヤその他最も大きな諸河川の溪谷及び沿岸の灌木林に集中してゐるが、或ひはアルタイ、サヤン及びチヤン・

シヤンの如き山系の山岳前面や山裾に集中してゐるのである。多くの地區に於ける草叢及び果實の割合は、採取機關が簡單に作業できる程に、地圖の上に印され、その割合が記入されてゐる。藥草採取の場合には各地方及び地區別に原料の區劃と分類を綿密に研究する必要のあることを忘れてはならない。例へば、ソ聯邦の歐露南東部は貴重にして且つ廣範圍に興奮劑として用ひられる。秋羅（センヲウ）、アキフクジユ草の主要產地でなければならない。蓋し、ソ聯邦歐露部の區域を超えてはセンヲウは發見されないからである。若干の極めて貴重な調合藥は中央アジヤに於いて入手できる。例へばトウルクメンの曠野には比較的大きな樹狀オカヒジキ或ひはアルカロイド・サルソリンを含有し、トウルクメンでシエルケズと稱してゐる植物が比較的廣範に生育してゐる。それは老年者の緊張過度症や血壓昂進に效果があると知られてゐるものである。

藥用原料に劣らず興味のあるものは食用油脂或ひは工業用油脂を含む若干の野生植物及び種子であらう。西部シベリヤは赤松或ひは紅松に惠まれてゐるが、その實からは品質の優れた油脂を製造することができるのである。紅松の實の核には五四パーセント乃至五六パーセントまでの油を含有してゐるのである。コーカサスも亦同樣に種子或ひは山毛欅の實の極めて豐富な油脂給源を有してゐる。山毛欅はコーカサスに於ける基本的な樹木を成してゐるものである。

西コーカサスには成熟した實をつける山毛欅約一〇〇萬ヘクタールが植付けてあるから、その實の種子の收穫は年に少くとも三〇萬噸乃至三五萬噸となつてゐる。しかし、普通、收穫の九五パーセントは森林の中に無益に振り撒かれ徒らに腐、ヤマネや鼠の餌食にしてゐるのである。山毛欅の種子には極めて耐久性のある優良油脂を三〇パーセント乃至三二パーセント含んでゐる。しかし、コーカサスには山毛欅の油を採取する工場が一つも存在せず、抽出作業は總べて手工業的方法でおこなはれてゐるに過ぎない。中央アジヤ及びカザツクスタンに於いては、今日迄西瓜、メロン、南瓜などの種子の貴重なものを廢物とし、日常生活でも各種果實綜合工場及び罐詰工場でも林檎、梨、杏或ひは乾杏などの種子を輕視してゐる。

然るに例へば西瓜の種子には二一%乃至三五%の優良な食用油脂を含有して居り、工業的に壓搾するときには廢物は僅かに種子の重要のうち一八%乃至二〇%となつてゐるのである。メロンの種子には二五%から二七%脂肪を含んでゐるし南瓜の種子には二五%乃至三七%の脂肪を含んでゐる。

而して林檎の種子には二三%梨の種子には一二乃至二一%の優秀な食用油

脂を含有してゐるのである。更らに中央アジヤ及びカザツクスタンに於ける若干の野生植物から極めて特殊な油を採取することができる。それは直接國防問題に關聯する意義を有するものである。例へば、上述の地方の曠野及び草原には實を澤山つける一年生新草と呼ばれる極めて有實な大堅の雜草が生ひはびこつてゐる。大きな鍵型の刺の生えたこれら植物の果實は、極めて特殊な性質を有せる工業用油脂三九%乃至四〇%を含有してゐるのである。ベー・エヌ・ルウトフスキイ教授の行つた特別研究に依つて、これら雜草の油脂は、その上にニスを塗ると現代の有毒ガスに對して非常に耐久力を生ずる。即ちこれらガスのうちにはイベリツト瓦斯や燃燒性瓦斯も含まれる。

我國の多くの州には夥しい數量に上る野生の纖維性植物がある。それは衣服用織物製造に對する羊毛や木綿の代用にはならないとしても、目の粗い編物や袋用織物には全く有用なものである。南部ウラルからアルタイ及びミヌウシンスクのステツプ地帶に至る迄の西部シベリヤに於いては、極めて廣範に雜草性野生麻が分布して居り、これらは栽培されてゐる麻に劣らぬ性質を有し粗纖維一二パーセント乃至一六パーセントを含有してゐる。これらの纖維は網細引及び粗い織物用のもので、これらを以つて袋類及び魚網が織られるのである。各種の麻屬にも非常に强靱な纖維が八%乃至一二%含み、而して西部シベリヤに於いては特に優秀な最も强靱な纖維のある掌狀の葉を有つ蕁麻が廣範に分布してゐる。カムチヤツカに於いても嘗つて、此の蕁麻からの纖維の採取は完全に營業化され、同州では此の纖維を網類及びその他漁夫の船具に利用してゐたばかりでなく、これを以つて衣服をも作つてゐたといふことを思ひ起すことができるのである。

二、副次農業の收穫

ソ聯邦に於ける食糧問題、わけても馬鈴薯及び蔬菜の調達は、來るべき冬季を控えて愈々重要性を增し、毎日の如くソ聯新聞の面を賑はしてゐる、各種企業公共機關などの所謂副次農業に關する記事が之を證明してゐる、その一例として去る八月十二日附イズヴエスチヤ紙に揭載された『副次農業の收穫を模範的に行へ』と記事の概要を紹介しよう。

最近、レーニン勳章保持スターリン記念クズネーツ製鐵綜合企業の副次農業集團はスターリン記念マグニツトゴールスク冶金綜合企業の副次農業勞働者に對して手紙を以て、今年の收穫を更らに優秀に行ふための社會主義競爭を挑戰した。クズネーツの製鐵關係の副次農業は計畫超過を以て今年の春季播種を優秀に行つた、現在七、〇〇〇ヘクターの作物が成熟してゐる。『今や

吾々は農業年度の最後的斷乎たる作業を期間内にしかも質的とも優秀な收穫を擧げるよう凡ゆる方法を採らなければならない。吾々は亦馬鈴薯、蔬菜、穀物の一莖と謂も失はないよう全收穫期間に亘り取入れなければならない、作物の收穫、運搬並に貯藏に關聯を有する總べての諸問題を愼重に且つ全面的に考究する必要がある』とクズネーツ綜合企業の副次農業勞働者が手紙の中に書いてゐる。

斯くて、一方のマグニツトゴールスクの副次農業勞働者はクズネーツ綜合企業の挑戰を引受けたのである。此の呼掛けには其の他冶金工業諸企業も應じた。詰り副次農業勞働者の競爭は全國的に進展してゐるのである。石炭工業人民委員部關係諸企業の副次農業は昨年度よりも本年度に於いて二三、〇〇〇ヘクターを增しの約七七、〇〇〇ヘクターの作付を行つた、石油工業人民委員部の副次農業に依れば、春蒔作物の作付は二倍以上の增加であつた、工業の他部門に於ける副次農業に依つても作付反別は著しく增加したのである。副次農業に於ける作業員が增大した、これに對應して收穫に對する重要性を引上げられた、收穫の迅速さと節約を行ふ基本的な條件は聯邦人民委員會議の決定、『一九四三年度に於ける收穫並に農産物の調達に關する』法令に明白に定められてゐるのである。收穫は遲滯無く、損失無く行はれなければならない。これは收穫に對して最も愼重な物質的、技術的な準備を行つた場合にのみ可能なのである。その他、收穫された農産物の完全なる貯藏と加工を保證しなければならない、昨年は收穫を遲延した多くの農業經營者があり、その結果として收穫物の夥しい部分を喪失した。しかし、遺憾乍ら、昨年の誤謬が繰り返へされてゐる。例へば、ブウチコフを技師長とする工場の副次の農業に於いてはコンバイン五臺のうち修理を施したものは僅かに一臺に過ぎず、刈取機及び藁積載機の修理も完了しなかつた、本年は副次農業に依つて得るであらう生産物の量は著しく增加してゐる、航空機關の資料に依れば蔬菜及び馬鈴薯の收穫總量は本年度に於いて昨年度二倍となる筈である。此の全生産物を貯藏し且つ處理するためには如何に多くの事をしなければならないかが、想像することはできる、航空機工業人民委員部のモスクワに於ける企業の副次農業は二七、〇〇〇瓩の蔬菜及び馬鈴薯の倉庫設備計畫のうち、既に二四、六〇〇瓩分の倉庫を作つたのである、新建設及び古い蔬菜貯藏の修理を既に完了した幾百といふ農業經營のある例を擧げることができる、同時に亦第四〇工場の如くに貯藏所の建設を準備してゐるに過ぎない工場もある。それはグウジヤンスキー等を農業機關長とする工場で五〇〇瓩を貯藏する計畫のところに僅かに二

○瓩分の貯藏所ができてゐるに過ぎないやうな副次農業經營所がある。貯藏所の工夫と建設には獨創と奇知を表はすやうにしなければならぬ、建設の場所には人手と建設材料を集める必要がある、同時に樽の準備についても一言しなければならない。

然るにチェリヤビンスク冶金工場に於いては貯藏所の建設に對しても、また樽の準備に對しても手を拱いで爲す所がなかつた、工場の勞働者は明らかに誰かゞ樽を持つてやつて來るかと待つてゐるやうである、收穫には大きな勞働力を必要とする、從つて副次農業の一人の勞働者では收穫することはできない、故に企業長は此の點に關して副次農業に對する最も積極的な援助を示さなければならないのである。そこで企業の全勞働者と勤務員が相談し合ふことが一番いゝことである。また收穫作業に對しては農業機關の從業員、勤務員、家族、學生の一部分をも利用しなければならない。期限一杯にしかも損失なく最後の一ブード迄も收穫するためには全部が全部動かねばならない。副次農業は既に收穫に取りかゝつた。諸企業の食堂は常に多くの蔬菜や馬鈴薯の供給を得てゐる。收穫が限られた期間内に損失なく優秀に行はれ、且つ亦生產物全部を貯藏するならば食堂は一年中これらの蔬菜や馬鈴薯をもつて保證される筈である。此の課題の遂行のためには現在、全力で全技術的手段を動員しなければならない。

三、シベリヤ及びウラルて果樹園擴張

民需物資の不足が獨ソ戰以來特に深刻を加へてゐるソ聯では、野菜その他日常副食物の自給自足に努め、新聞雜誌でも盛んにこれら集團並に個人菜園の經營を行ひ、これに各企業の勞働者、勤務員を始め、學生などの參加を得て來るべき冬に備へてゐるやうであるが、去る七月下旬のイズウエスチヤ紙はシベリヤ及びウラル方面に於る果樹園設備に就いて『シベリヤ及びウラルに於いては果樹園が年々擴張されてゐる。シベリヤのコルホーズだけでも現在二〇、〇〇〇ヘクタール以上の果樹園を算してゐる。而して中央諸州から移植された果樹が栽培されつある。オムスク州に於いては玆數年の間に一〇〇萬本の果樹が栽培された、本年シベリヤ及びウラルに果樹を栽培するため四、〇〇〇ヘクタールが加へられる、スヴエルドロフスク周邊には果樹林より成る環狀線地帶が作られてゐる。而して之には數千本の林檎、梨、實ザクラ、スグリの植付が行はれつゝある。』と言つて果栽培狀況を報じてゐる。

四、カムチヤツカの漁業

獨ソ開戰既に滿二ケ年有餘、アゾフ、黑海の漁業が獨軍の制壓下に於いて殆んど不可能になつた今日カスピ海とカ

ムチヤツカを含む東亞ソ領水域に於ける漁業がソ聯の食糧需給の上に重要な役割を演じてゐるが、ハバロフスクからのタス通信はカムチヤツカに於ける漁業の年度計畫が既に超過遂行されたことを傳へてゐる、即ちカムチヤツカ諸州の漁業從業員は年度計畫を遂行し、毎日最高指令部に獻納する漁獲高を增大しつゝあり、計畫超過は既に三十四萬二千ブードに達した、漁業コンビナートや漁業コルホーズの漁業者は魚群が網に近づいてくるのを待たない、彼等は偵察を行つて海上遙かに出て一つの區域から他の區域へと魚群の調査を行つてゐるのである。漁夫達の沒我的な働きに依つて今日迄に未曾有の漁獲高を擧げた、また漁業コンビナートの勞働者——特に戰時下の生產戰線にまた婦人の優秀な働きに依り、魚の適時的な加工が行ははれてゐるのである、と述べカムチヤツカ方面に於ける漁業の活況を傳へてゐる。

五、スタリングラードの復興狀況

悽愴な獨ソ攻防戰の反覆に依つて殆んど灰燼に歸したスターリングラードは、赤軍の奪回後、時々新聞に依つてその復興許畫並にこれが實行の狀況について斷片的に報道され、その何れもが、國內の士氣昂揚を目標としてゐるやうな書き振りで、實際問題として然かく急速な復興が行はれてゐるか何うか判斷に苦しむが、近着イズウエスチヤ紙は、その狀況に就いて次のやうに述べてゐる。

即ち、ロシヤ共和國の經濟關係人民委員部附屬スタリングラード住宅、共同住宅復興總管理局長官技師エス・ビリュコフはタス通進記者との會見に於いて復興事業の進行狀況について『最近三ケ月間にスターリングラードに於て建設され、また復興を見た一階建家屋及び二階建の家屋は三三、〇〇〇平方メートルの敷地中に一、一〇〇棟を建設し、工場地區には——九六棟の家屋が建設され、その總敷地は五六、〇〇〇平方メートルとなつてゐる。大規模の建設を完成したのは罐詰工業勞働者のための五階建の二つの部分とヴォロシフ地區ソウエートの四階建の建築物であり、竣工中のものでは市ソウエート、電話局、一つの學校の建築物である、また修復工事の行はれてゐるのはゴーリキー記念州立劇場である。市の他の地區に於いて復興成績が目覺しく、戰前の能力に充分に復興したのは中央水道局であり、南部水道の一二、五〇〇メートルの導水管が修理され、市街電車は四粁、丸石の鋪道は一〇、〇〇〇平方メートル、アスファルト道路は一、五〇〇平方メートル修復された、また大浴場二〇、アスファルト工場、市街電車前屯所及びその他地元企業の建設が行はれてゐる。而して、建設には市の數千人に上る技師や勞働

者が從事し、復興建設には全國が積極的に參與してゐるのである。即ちここへは國の端々から建築材料が到着し、スタリングラードの勤勞大衆は毎日、その基本的作業の後自分達の市のために二時間乃至三時間の勤勞奉仕をしてゐると語つた』と報じてゐる。

學術

一、新輸血方法を發明

戰爭に依つて戰陣醫學が進歩することは交戰各國共に同じであらうが、ソ聯でも開戰以來これが進歩發達に就いて屢々新聞雜誌でその成果を發表してゐるやうである。近着イズウェスチヤ紙に依るとレニングラード輸血研究所の活動に就いて左の如く傳へてゐる。即ち獨ソ戰以來、レニングラード輸血研究所員は五十二の學術的著作を出版した、而して挿圖を豐富に添へた「輸血アトラス」の印刷ができた、このアトラスは醫師及び醫學關係學生に取つて極めて貴重なものである。戰爭は輸血の技術に對して多くの新しい方法を齎らしたが、同研究所員ベリヤコフは如何なる場合に於いても輸血を行ふことのできる所謂ユニヴアーサル式器具を發明した、ベリヤコフのユニヴアーサル式輸血量は現に大規模に採用されつつある。また同研究所は輸血に關する專門的な注意書を作成して野戰病院に之を交附してゐる。尙ほ過去二ケ年間に同研究所が輸血の方法を敎へた醫師の數は一、一〇〇名、看護婦の數は七〇〇名に上つてゐる。と言つて、レニングラード輸血研究所の活動狀況を傳へてゐる。しかし、その方法の內容に就いては何等ら觸れてゐない。

二、東部に於ける醫學研究狀況

今次獨ソ戰爭に依つて尨大な數に上る傷病兵を出したソ聯は、これが治療に當り國內の醫療機關を動員してゐるが、何しろ戰前から醫藥品不足に惱んで來英から之が供給を仰ぐと共に、國內の藥用植物の採集など些か泥繩式な方法も必然的に採られてゐるやうである。しかし、戰爭の長期化と共に漸次醫療關係の要員を整へてゐることもソ聯紙は屢々誇大に報道してゐる。最近の報道に依ると東部地方に於ける醫療機關並に活潑な研究を續けてゐるらしく例へば去る八月十日のノヴオロシスク發タス電報に依ると、これら東部に於ける醫療關係者の科學活動に就いて大要次のやうに述べてゐる。即ち、ノヴオシビールスク醫學研究所及び醫師改善研究所の科學研究集團は五十三の新らしい科學研究を完成した。そのテーマは何れも主として戰時下醫療問題に關聯のあるものである。デイヴオノゴールスキイ敎授を首班とする病院外科講座は胸腔及び腹腔負傷資料研究並にこれら負傷の治療方法に基ずく興味ある研究を發表した。ルウバジョフ敎

授の指導する一般外科の研究集團は慢性オステオミエリツトを研究した。內科講座の指導者ビチリ、メンシュコフ、カラセフ、シエルシエフスキイなどの諸敎授は心臟病に關する新研究を完了した。また白ロシヤ學士院會員レオノフは流行性腦膜炎に對するサルフイヂンの作用に關する重要な資料を發表した、一方ムイシュ敎授は外科診斷學集の第二卷を完成し、フライフエリド博士は整型外科に關する多數の器具を研究した。斯くて醫學研究所の各研究員は現在來るべき大學術會議の準備をしてゐると報じてゐる。

三、二百種の藥用植物を發見

ソ聯邦の藥品不足は戰前から言はれてゐたことであり、獨ソ戰勃發後、米英が第一にソ聯に對して藥品類を援ソ物資として送つた事實に見ても判るが、近着ソ聯紙によるとキルギースの首都フルンゼからの報道として同地方で獨ソ開戰以來約二〇〇種に上る藥草を發見することができたと傳へてゐる。即ちキルギースのイヅスイク・クウラ州に於ける多數のコルホーズは罌粟を澤山に栽培して居り、今日迄、阿片の採取方法は罌粟の頭部を截つて居たが、これは非常に骨が折れ、加ふるに多くの貴重な原料を失くすのである。そこで、化學藥劑學術研究所では手を使はずに更らに容易に罌粟の液汁を抽出する方法を發見したのである。また獨ソ開戰以來二ケ年の間に同研究所はキルギースに於ける藥用植物研究の大事業を行つた、而して溪谷を探査した四つの調査隊は約二〇〇種に上る藥用植物を發見した。而かもそのうち多くは既に藥劑に製造されてゐる。また同研究所は各種ヴイタミンの製造を行た。スルフアミド劑や鹽化加里なども製造してゐる。更らに同研究所はソ聯邦最初の心臟病治療劑即ち壜詰めのストロフアンチン（强心劑）の製劑に成功した、而して本年度に於いて五〇〇、〇〇〇壜のストロフアンチンを製造する筈である。と報じてゐる。

四、第九回全ソ建築學協議會開催

今次獨ソ戰の規模の大きさは正に世界戰史未曾有と云ふべきで、ソ聯の喪失地域の廣大さ、その人的並に物的の損害の程度など何れも吾々の想像を超えたものがある、就中苛烈な航空機戰の應酬と、近代科學の粹を集めた獨ソ兩軍の火砲の威力は必然的に占領地域の建築を破壞し去り、昨日迄の近代都市も今日は徹底的な瓦礫と化した例は枚擧に遑ない程である。從つて戰時下ソ聯邦の建築界もこれら惡條件に如何に克服するかの問題の解決に努力してゐるやうであり、特に東部地方に於ける工業建設とに關聯して、應急的建築の問題を重視してゐるが、近着イズヴエスチヤ紙は去る八月中旬モスクワに

於いて開催された第九回全聯邦建築家協議會幹部會の協議につき概要次のやうに報告してゐる。

それに依ると、同幹部會には建築家、彫刻家、學術機關、建築團體及び設計家團體代表など三〇〇人以上が出席し、學士院會員であり、建築家であるカー・アラビヤンが先づ開會の挨拶を述べて、次いで矢張り學士院會員建築家アー・モルドヴィノフが戰時下に於ける建築の實際と獨創的な問題に關する大報告演說を行つた、彼は東部に於ける建築、非高層建築物の裝備、街路及び部落の計畫化、これに對する建築家の參與などに特別の注意を拂つた、而して同幹部會の開催された建築會館階下のホールに於いては戰時下ソ聯の建築設計並にその資材の展覽會が催されたと報じて、戰時建築の重要性を示唆してゐる。

五、戰時映畫理論問題

ソ聯は革命以來共產主義國家を標榜して、凡ゆる機會に國內は素より國外に向つても主義の宣傳を行ひ、世界赤化の希望を捨てず先般、米英との政治的な駈引から解散したコミンテルンを通じて世界各國の共產主義者と連絡を保ち、これが宣傳に努めて居つた、その宣傳手段は各種に亘つてゐるが、わけても映畫に依る宣傳は大衆に對して特に效果的であつたやうであるが、獨ソ戰が勃發するや、この宣傳的武器たる映畫を國內の士氣昂揚に巧みに利用し、對獨敵愾心を煽り、既に過去二ケ年有餘の間に戰爭乃至は國民の愛國心をテーマとする數々の映畫を作製し、國々の各地に於いて之を上映してゐるばかりでなく、反樞軸國家に於いても これを上映して宣傳に努めてゐるが、去る七月中旬のソ聯紙は今後に於ける映畫脚本に關する問題に就いて會議が開かれたことを報じてゐる。即ち、七月十四日の晩ソ聯邦人民委員會議附屬映畫事業委員會に於いて作家、映畫脚本作者、映畫監督などの會議が開かれた、これは戰爭以來「二ケ年間に動員された映畫劇理論問題の檢討に關する最初の大きな會合であつた。右の會合には最も有名な作家、映畫シナリオライター、映畫製作者が列席し、聯邦人民委員會議附屬映畫事業委員會議長イー・ボリシヤコフは「ソウエート映畫劇理論の最も近き將來の任務に就いて」なる報告を行つた。その後で同委員會の映畫臺本研究所長のエム・ボリシンツオフの「報告一九四三年度下半期に於ける映畫臺本研究所のテーマの計畫に就いて」を聽取したと報じてゐる。

六、ロシヤ度量衡所創立五十年

ロシヤの生んだ偉大な科學者デー・イー・メンデレーフの創意に依つてペテルブールグ(現在のレニングラード)に初めて度量衡の役所を創立してから

今年が丁度五十年に當ると近着ソ聯紙は得へてゐる。それに依ると此の度量衡所の任務は度量衡の正確さと相關關係を定め且つこれを保護する國家唯一の機關とするに在つたのである。現在では聯邦人民委員會議附屬度量衡及び計器事業委員會は國內に於ける凡ゆる度量衡並に檢査研究に依つて統一され且つ指導されてゐる。而してその組織の中には三つの學術研究所と二〇〇ケ所に餘る檢査機關が在る、全聯邦度量衡研究所はその最大の公共的度量衡機關であり多種多樣の測定實驗に對する設備を有してゐる。

ソ聯の資源調査

一、カザツクスタンの大調査隊

獨ソ開戰以來、ソ聯の科學陣が東部に主力を注ぎ既に南ウラルのスヴエルドロフスクに於いて學士院の總會が開催される等、南露の富源喪失に依つて必然的に科學者、技術者が東部に移動した形である。殊にウラル、西シベリヤ、カザツクスタン埋藏資源を急速に開發する目的からウラル西シベリヤ・カザツクスタン資源動員委員會の設置を見委員長には聯邦學士院の院長ヴエ・エル・コマロフ博士自身が就任してゐることを見ても、如何にこれら埋藏資源の急速開發に眞劍であるかゞ想像される、その一例として、去る八月十日附イズヴエスチヤ紙に「カザツクスタンに於ける科學活動」に關して、聯邦學士院カザツクスタン支部幹部會員であり、また同支部の書記であるイー・ポリヤコフが寄稿してゐるが、その概要を傳へると次の通りである。

「カザツクスタンの學者は同共和國に於ける鑛物資源、植物資源並に畜產資源動員に積極的に携つてゐる。聯邦學士院のカザツクスタン支部は今夏約七〇に上る調査隊を各地に派遣した、而して地質學班はスターリン賞の受賞者である同支部幹部會の委員長カー・サトバイエフの指導の下に鐵鑛基地を研究中である。六つの班は亦マンガン鑛のある地方に活動してゐる、既にその活動の最初の成果に依つて、カザツクスタンは東部に於ける製鐵業に對してマンガン供給の可能性を物語つてゐる。最も多數の地質學者グループは銅鑛、複合金屬及び稀有金屬の產地の研究並びに的確な發見を續けてゐる、クウスタナイ及び北カザツクスタン諸州の工業中心地に燃料を供給する目的を以て、泥炭調査隊が中央カザツクスタンに於ける泥炭層の研究に當つてゐる。此の研究の結果、今年中に泥炭處理法が採用されるに至るであらう。

最近、またアルマ・アタからはウラル・エムバ兩河流域に於ける資源の綜合的研究のために大調査隊が出發した、この調査隊には地質學者、水理學者、土壤學者、農學者、植物學者及び

動物學者などが參加して居り、カザツクスタン石油綜合企業と協同調査を行ふ筈になつてゐる。同調査隊は右流域に於ける石油資源の廣汎な調査を實現することになつてゐる。五千種類を數へるカザツクスタンの植物界は工業用としてその最も多種類の資源を與へてゐることができる、野生植物資源の學術研究に對しては、生物學博士バヴロフを首班として活動してゐる。同班員は亦アルマ・アタ及びジャンブル兩州の廣大な地域を探査し、タンニン、塗色、繊維、膠及び食用になる植物の產地配置並にその量的な研究を行つてゐる。また同支部の特別調査隊は中央カザツクスタンに於いて、國防工業に廣範に利用される樹脂含有の貴重な植物を明らかにしてゐるし、またカザツクスタンの水量では第三位のザイサン湖に於ける魚類の推定量と集中狀況の研究をも同時に行つてゐる。

斯くてカザツク共和國の學者は國防工業並に食料生產のために絕えず新資源を研究しつゝ前線に協力してゐる」と言つてカザツクスタンに於ける學者の研究活動狀況を報じてゐる。獨軍との苛烈な死鬪を續けあらゆる力を戰爭に集中してゐる今日、學者の研究調査に次いで必要とされる實際的な開發が、果してどの程度に實現できるか、疑問であるとは言へ目下東部に於いて新資源の開發に非常な努力を拂つてゐることだけは右の記事によつて窺はれる。」

昭和十八年十二月五日印刷
昭和十八年十二月十日發行

日露年鑑（昭和十九年版）
（會員番號 105525）
（日本出版會承認イ30417）
（初版 2000部）
（限定版）

定價 拾貳圓
特別行爲稅相當額 五十錢
合計 金拾貳圓五拾錢

不許複製

發行所 東京都麹町區丸ノ内三丁目二番地
株式會社 歐亞通信社
電話丸ノ内 二七九二 四六四四 四六四五
振替東京 四三〇一五

發行兼編纂者 東京都麹町區丸ノ内三丁目二番地
歐亞通信社
代表者 上田森治

印刷所 東京都芝區田村町三丁目七番地
升活版所
印刷者 東京都芝區田村町三丁目七番地
升辰雄

配給元 東京都神田區淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社